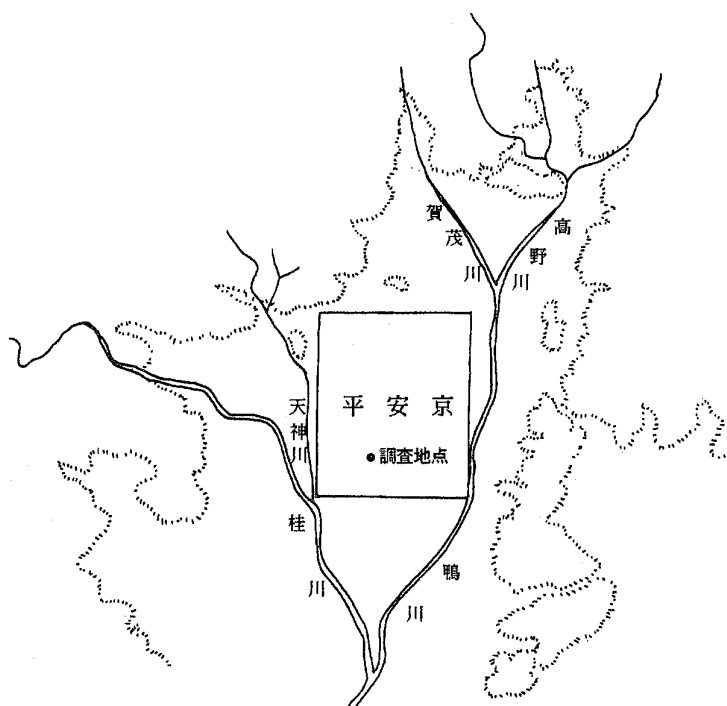


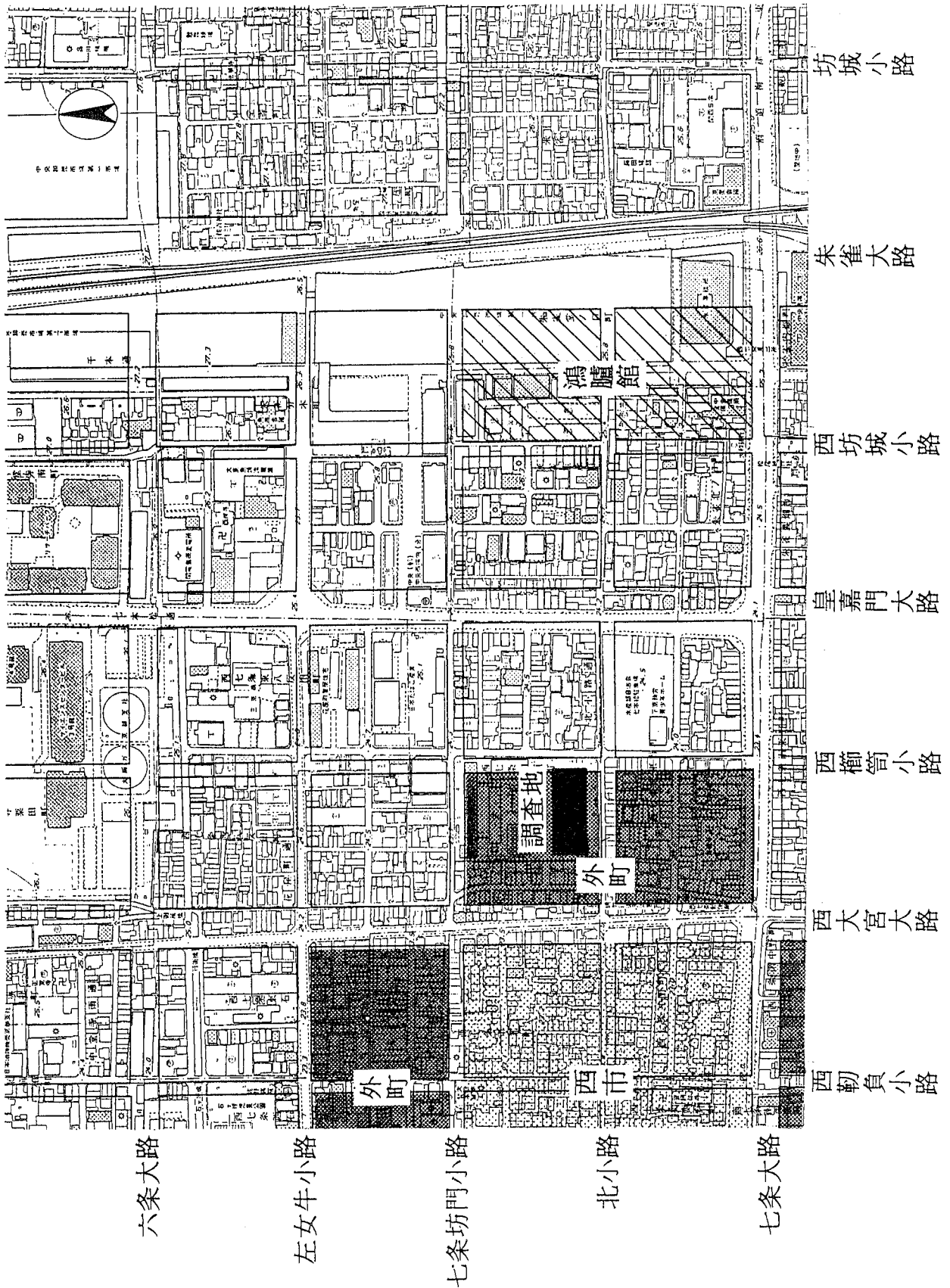
平安京右京七条一坊十四町（西市外町）

発掘調査現地説明会資料



1998年1月17日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



調査位置図 (1 : 5000)

平安京右京七条一坊十四町（西市外町）発掘調査現地説明会

場所 京都市下京区西七条御領町
 期間 1997年9月末～継続中
 調査面積 約2000㎡
 調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

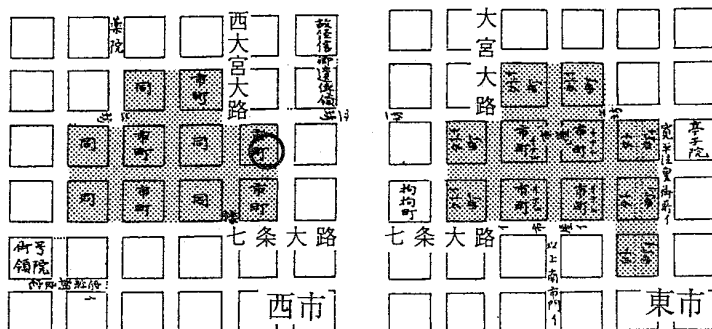
はじめに

今回の調査は、京都市立七条中学校の校舎新築に伴うものです。平安京の右京・左京には、官営の市場が朱雀大路を挟んで左右対称に造られました。当調査地は、西市の東側にあたり市外町とされている所です。

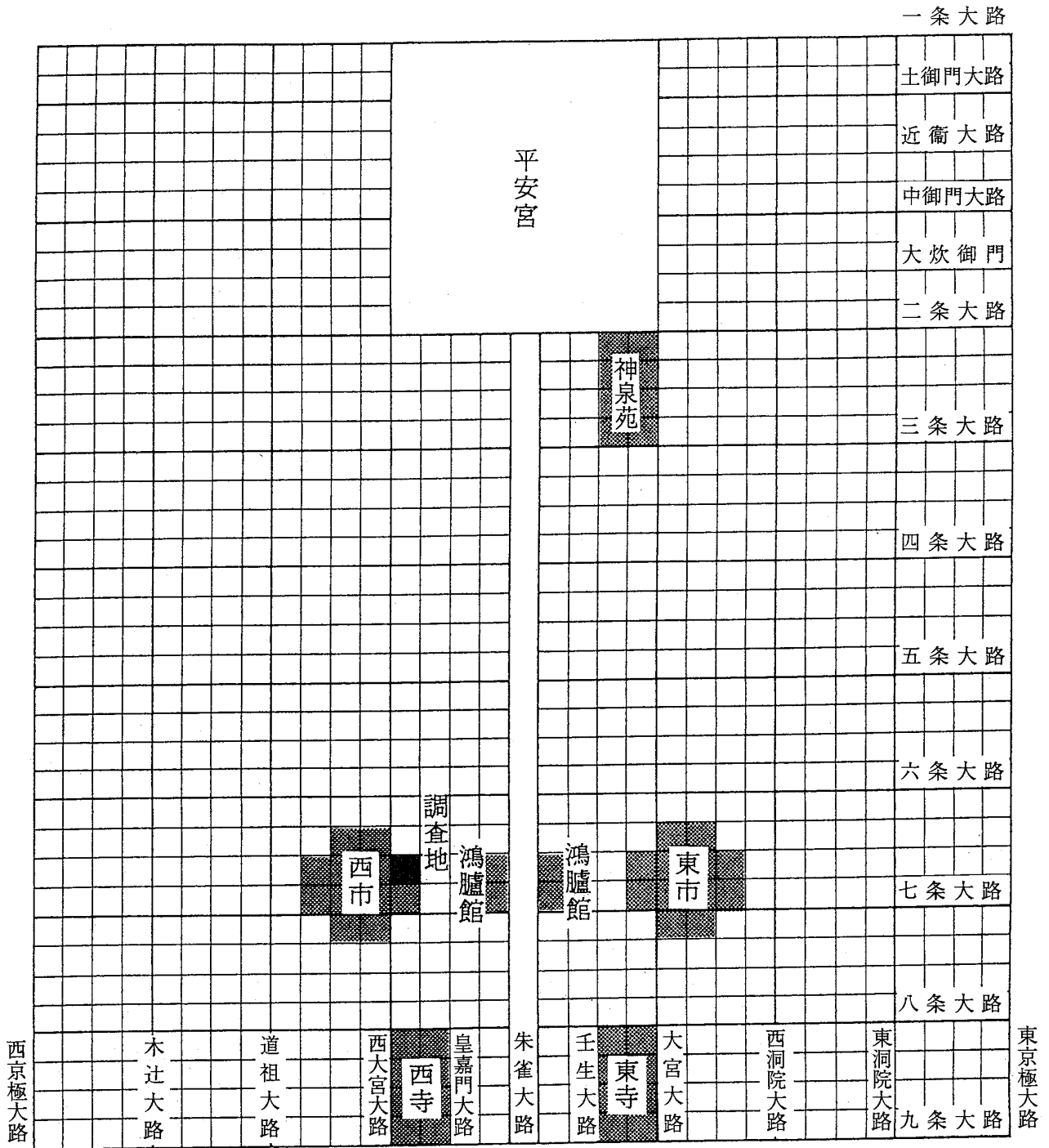
東市・西市は左・右京職が直轄する市司がその管理にあたり、平安京内の経済活動の拠点としてにぎわっていました。10世紀にはいと経済活動はますます活発になり、最初は4町であった市町の東西南北に各2町ずつ「外町」とよばれる町が、加えられたと後世の文献などに記載されています。しかし、九条家本『延喜式』付載の「京図」では、東市には外町8町の記載がありますが、西市の周辺は空閑地となっています。このように西市外町の様子は、よくわかっていません。

今回の調査成果

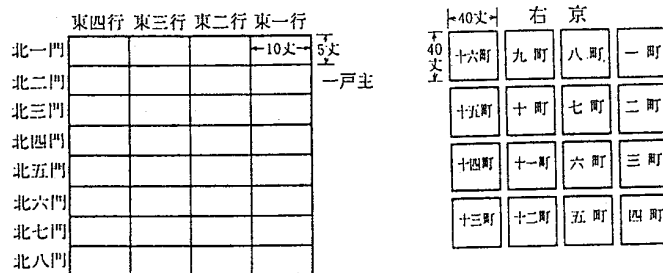
調査地は七条一坊十四町内の南東部分、一町の約6分の1という広い面積を一度に開けて調査することができました。そして平安時代前期の一町内の様子がよく分かる遺構を、明瞭な形で検出できました。平安時代前期の建物跡（14棟）・井戸（6基）・柵列（3～4条）を検出しました。井戸からは、たくさんの木製品（下駄・曲物・斎串・箸など）や、土器（灰釉壺・緑釉輪花碗など）・瓦などが出土しています。また皇朝十二銭の一つ、承和昌寶も出土しました。



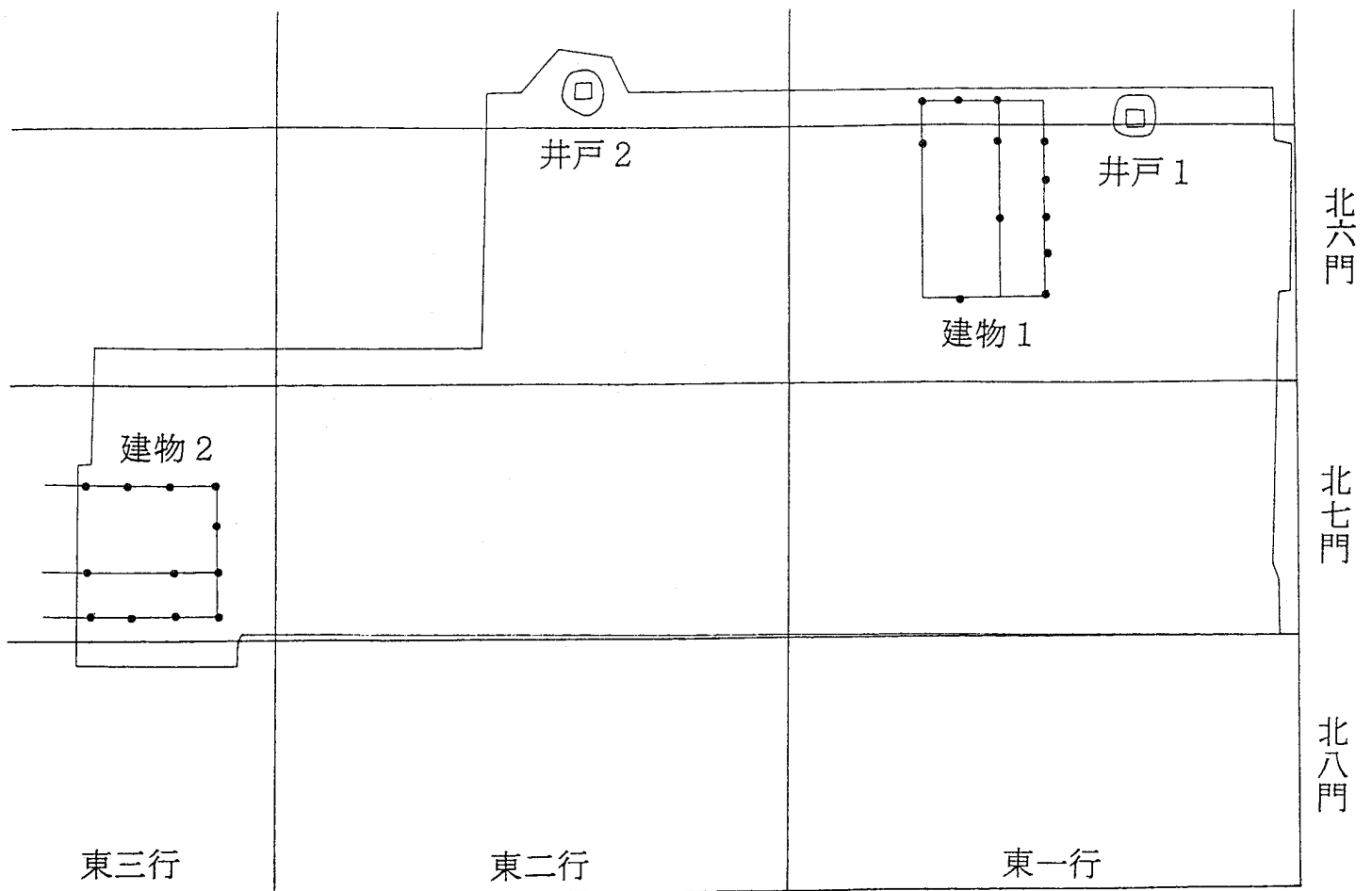
拾芥抄指図に描かれた西市と東市（○は調査地）



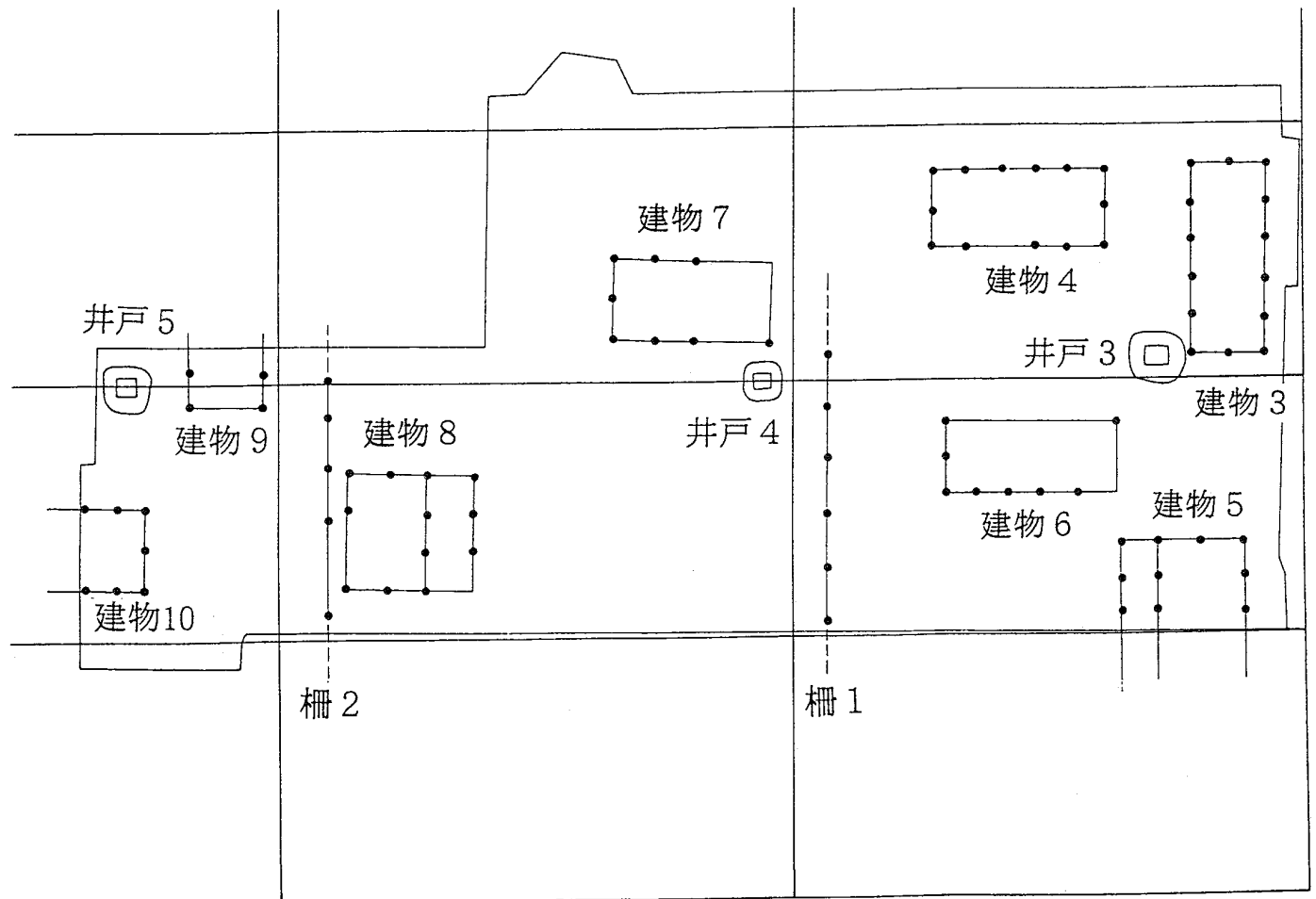
平安京条坊全体図



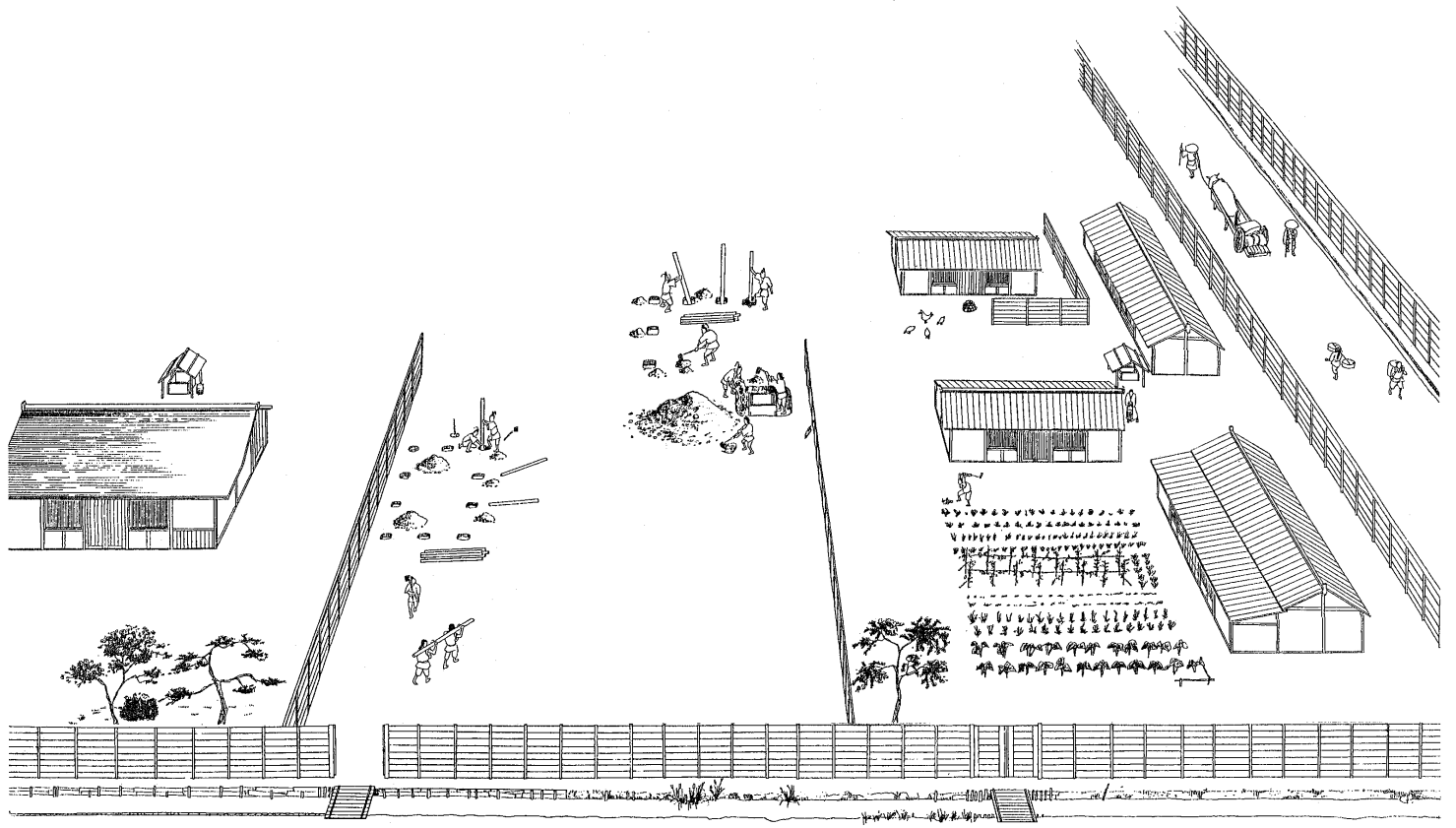
町の数え方と町内の四行八門



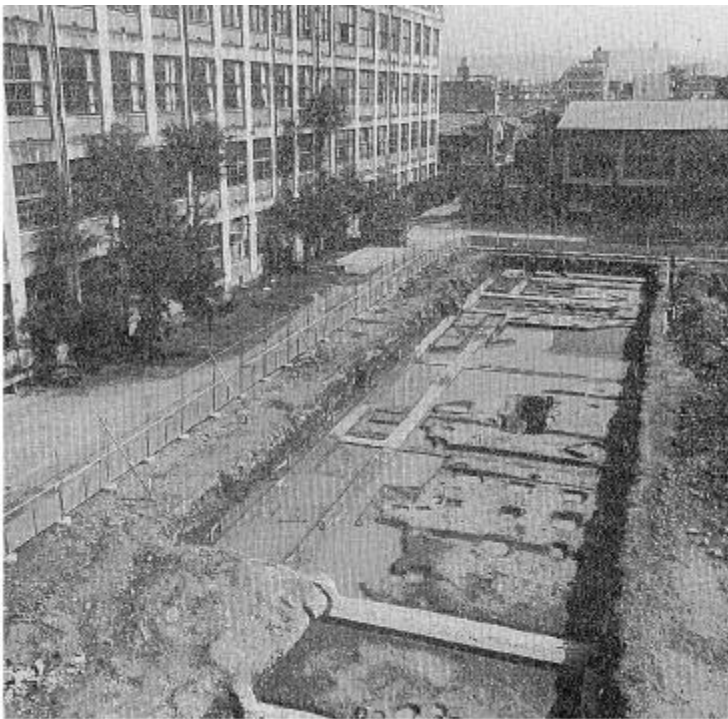
9世紀前半の建物跡と井戸



9世紀後半の建物跡と井戸



調査地の復元図



昭和52年の調査「現二階建て校舎の下」(西から)



昭和52年の調査で検出した井戸



調査区全景（東から）



建物10（北東から）